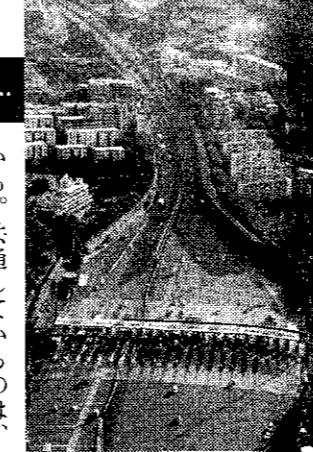


もし料金所なかりせば……



バブルの処理がすみ、小泉改革を経験したはずの日本。本経済は依然として低成長である。衰退の最大の原因は、過去の繁栄の方程式にしがみついて、東京中心の経済から、地方が自力で成長する経済に転換していかない。世界の変化に適応して国土の利用法を変えないから、国力の低下に歯止めがかからない。

80年代までの日本は、もろの作りナランバーワン国家だつた。世界中から一番安い原材料を買い、太平洋ベルト地帯で、安く優秀な製品に加工し、輸出して外貨止めがかからない。

80年代までの日本は、もろの作りナランバーワン国家だつた。世界中から一番安い原材料を買い、太平洋ベルト地帯で、安く優秀な製品に加工し、輸出して外貨止めがかからない。

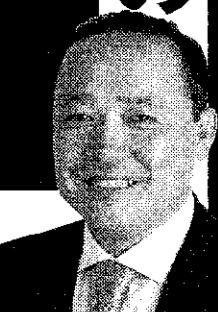
しかし、いまや、製造業の世界一は中国だ。さらに、インド、ベトナム、東欧などの諸国も外国企業の製造基地になつた。豊富な労働力をと広い土地が、安く使えた。

しかし、いまや、製造業の世界一は中国だ。さらに、インド、ベトナム、東欧などの諸国も外国企業の製造基地になつた。豊富な労働力をと広い土地が、安く使えた。

しかし、いまや、製造業の世界一は中国だ。さらに、インド、ベトナム、東欧などの諸国も外国企業の製造基地になつた。豊富な労働力をと広い土地が、安く使えた。

高速道路「無料化」で地方の活性化を図れ 山崎養世

シンクタンク「山崎養世事務所」代表



ヨーロッパでは、大企業以外にも、農業、観光、健康、リゾート、グルメ、環境、などの多くの産業が田園から成長した。ただのブル汁が高価なワインやバルサミコに変わり、トスカーナやプロヴァンスの別荘は、すさまじい値上がりをした。ファッショニや宝石や時計やスープカードも、地域の伝統に根ざしている。歴史や伝統、昔ながらの生活習慣を守り、美、おいしさが大きく下がり、幅広

き、センス、快適さ、など文化を、経済に変えていくことに成功したのだ。かくして、世界中がヨーロッパのものを争って求め、ユーロは上昇した。

欧米諸国の変身を支えたのは、片田舎でも都会に負けない生活や仕事ができるインフラの整備だった。金融やITはもちろん、航空と鉄道、そして、無料か低料金の高速道路網が、地域格差の少ない国土を支えている。

日本は、アジアの大國の中では唯一、欧米型の経済成長ができる国だ。技術と文化両面での地方発の経済

立国が可能だ。技術や特許の水準は世界一を争う。日本発の新技术を持つ巨大企業が、それでもまったく不思議はない。

しかも、伝統工芸品など職人のもの作りの腕では世界一だ。また、日本人は世界のあらゆる料理を最高に巧みに作れる唯一の民族だ。日本の田園産業も、壮大な可能性を秘めている。日本の食材は世界トップクラスだ。日本列島ほど変化に富み、美しい国土は世界でも珍しい。日本中が、世界の歴史と文化を貯蔵する冷凍庫でもある。文化大国だ。

い産業にメリットが生まれる。ビジネス、通勤、買い物、レジャーの範囲も広がったときの、地方を中心とした経済効果は、今までない。まず、交通と物流のコストが大きく下がり、幅広

が高まり、新しい道路の建設は少なくてすむ。無駄な道路建設も減るはずだ。

無料化が実現しなかつたのは、道路公団が民営化された後も、43兆円もの借金を抱えているからだ。民営化といしながら、政府の計画では、2020年までさらには20兆円の借金をして高速道路を作る予定だ。借金を返済し終わるのは、2050年と予定されている。

しかし、その返済計画は大変危険だ。想定している金利が低いのだ。今後40年余りの平均金利が政府の想定する金利を上回れば、損失は国民負担になる。たとえば、平均金利が年率で7%になれば、国民負担は50兆円を超える。今後の世界のインフレの進行を予測すれば十分にありえる。もちろん世界一高い通行料金を取り続けた上の負担だ。

こんな理不尽なことが起

る。いまある高速道路が活用されると、さらに、料金所がなくなりければ、多くの新しい出

入り口を料金所よりはるかに安く造れる。一般道路との接続が改善されれば、既存の道路システムの輸送力

が、そのまま利用できる。

しかし、交通が、地方の

発展による経済成長を阻んでいた。大都市圏以外の地方の交通は、ほとんど道路

しかなく、不便でコストが高い。

とりわけ不便なのが高速道路だ。料金が高いために、

巨費を投じた東京湾アクア

ラインや本四架橋が使われない。全国の高速道路の65%

では、並行する国道は混

るからだ。

そうなると、多くの日本

企業も、生産と販売の中心

を、人口が減る日本から、海外に移した。空洞化だ。

国内に残った企業も、人件費を削るために非正規雇用

を増やし、正社員との格差が生まれた。一方、財政は大幅に悪化し、地方への所得の移転は減り続け、地方

経済は縮小している。

国民と企業の共存共榮、

というジャパン・アズ・ナ

ンバーワンの姿は失われた。

ところが、これだけ経済

の空洞化が進んでいるのに、

日本経済は、既存の大企業

を稼いだ。その中心が東京

だつた。

稼いだ富は、「国土の均衡

ある発展」の政策によって、

全国に再配分された。橋や

道路が作られ、学校や病院

が整備され、年金や福祉が

いきわたつた。若者たちが

は豊かになつた。こうして、

一億総中流社会が出来上がつた。

しかし、いまや、製造業

の世界一は中国だ。さらに、

インド、ベトナム、東欧な

ども諸国も外国企業の製造

基地になつた。豊富な労働

力と広い土地が、安く使え

た。

しかし、いまや、製造業

の世界一は中国だ。さらに、

インド、ベトナム、東欧な

ども諸国も外国企業の製造

基地になつた。豊富な労働

力と広い土地が、安く使え

た。